



東北誘致

計画見直し巡り

コスト検証開始

有識者会議作業部会

【東京支社】国際リニアコライダー(ILC)の計画見直しを巡り、文部科学省の有識者会議が再設置した技術設計報告書(TDR)検証作業部会の第1回会合は30日、同省で開かれた。コストや技術面の実現可能性などを検証し、最終的に

報告をまとめる。

委員12人が出席し、国際将来加速器委員会(ICF)が昨年11月に承認した、

初期整備延長を31⁺から20^{*}に短縮する計画について協議。会議は冒頭のみ公開され、研究者が加速器の初

期建設費として想定される8300億円から4割程度削減が見込まれる根拠などを説明した。

同作業部会は2014、15年に計6回開催。ILCの計画変更を受け、科学的意義を検討する素粒子原子核物理作業部会とともに再

設置された。次回は3月に開くが、とりまとめの時期は公表していない。

座長の横溝英明総合科学研究機構理事長は「見直された計画に理解と議論を深め、報告をまとめたい」としている。